

◆ 街かど緑化部門 ◆

街かど緑化部門の応募は10件あり、郊外で緑地を確保するための余裕がある事例は1件のみでした。一方で、その他の応募は都心部や住宅地での緑化事例であり、多くが面積などの制約がある中で緑化に取り組んでいました。

そのため、人工地盤や壁面を利用した緑化など、建物の整備計画段階から緑化を意識した取り組みが主となっていました。都市部で良質な「緑」空間を維持するためには、緑化植物の生育に配慮した無理のない適切な維持管理が求められます。

今回最優秀賞を受賞した事例は人工地盤を利用した屋上菜園であり、近隣小学校と連携するなど、「緑」空間と地域市民が継続的に関わりを持てる仕組みが確立されていました。このように、都市部での「緑」空間維持の好事例として高く評価できました。

元日本大学 生物資源科学部 准教授 葉山 嘉一 委員

◆ 花壇・庭づくり部門 ◆

多摩第一小学校「いちはな花壇プロジェクト」は、保護者・学校・地域が協働し、人と自然、人と人を結ぶ場を育んでいる点が高く評価されました。生物多様性や資源循環、文化継承など多面的な実践に加え、専門家指導を踏まえた高い修景性と栽培技術、SNS 活用による効率的な運営など、多忙な子育て世代ならではの工夫が光ります。こうした活動を通じて子どもたちは地域への愛着や協働の大切さを学び、大人も楽しみながら地域と関わる循環が生まれており、花壇づくりの優れたモデルといえます。花壇・庭づくり部門全体としても、多主体協働や宿根草の活用による継続性、地域の物語性を生かしたデザインが高く評価されました。今後、生物多様性や都市環境課題への視点の深化を期待するとともに、皆様の熱意ある活動に敬意を表します。

公益財団法人東京都公園協会 常務理事 笹沼 理成

◆ まちなか緑化士部門 ◆

最優秀賞（藝大ヘッジ）講評

ヘッジという領域にスポットを当てて展開することで、大学と街との境界をつなぎ、大学敷地を超えて地域社会に豊かさを提供し、訪れる人々との新たな関係を生み出そうとする意欲的な取り組みです。限られた奥行きをもつヘッジ（境界）での展開は、広いオープンスペースがなくとも、どのようなプロジェクトにおいても環境価値を拡張できる可能性を示しています。従来の「生垣」という身近な緑化概念を再解釈した先導的事例として高く評価し、最優秀賞として表彰いたします。

応募全体に対する講評

今回の東京都都市緑化基金賞まちなか緑化士部門には 14 件の応募がありました。植栽整備にとどまらず、人の関わりを通して質を高めていく取り組みが多く、モデル性・人の巻き込み力・継続性・波及性を重視したプロジェクトが数多く見られました。コミュニティガーデンの広がりや個人発の活動が地域へ波及する事例など、都市の小さな緑から価値を拡張する可能性が明確に示されました。土壌から生態系の多様性を育む視点や、効果の見える化への意識も高まり、まちなか緑化講座で学び実践を重ねてきた皆さんの取り組みの成熟を強く感じる、大変充実した応募内容でした。これらの活動が今後さらに各地域で広がっていくことを期待します。

株式会社チームネット 代表取締役会長 甲斐 徹郎